

## ジビエ利用の取組「小諸市動物園（長野県小諸市）」

### 【取組の概要】

- 小諸市動物園では、市内で捕獲されたシカの有効活用やライオンの飼料代節減を目的に、シカ肉の給餌を開始。過去に開催していた園内イベントの際には、環境教育の一環として、来園者に給餌の背景やメリット等を説明。

### 【小諸市動物園の概要】

ジビエ受入状況:当初は捕獲されたシカを園内で解体・処理して給餌していたが、市内に「小諸市野生鳥獣商品化施設」が整備され、稼働を開始した平成28年4月以降は当該施設から購入

給餌状況:ライオン(1頭)、小獣類(タヌキ1頭、キツネ1頭、ホンドテン2頭)、猛禽類(フクロウ2羽、チョウゲンボウ1羽)、川上犬(1頭)に対してシカ肉(約100kg/月)を給餌。現在のライオンへの給餌量は、シカの肉、レバー、骨等を2~3kg/日

給餌経緯:小諸市では、シカの増加による農林業被害対策として捕獲を進めるなかで、焼却処理費用の増加等の課題があった。動物園ではライオン2頭(当時)を飼育しており、飼料代として年間約100万円の負担となっていた。そこで、平成24年度から給餌を開始

給餌メリット:普段にない刺激で行動が活性化する(くわえたままウロウロする等)、時間をかけて食べる、嗜好性がある

来園者への周知、反応:現在は高齢による体調不良で休止中だが、過去に開催していた「もぐもぐタイム」や「おやつタイム」の際には、鳥獣被害の現状やジビエ利用の重要性、給餌のメリット等を説明し、来園者からは取組に対して理解や賛同の声が聞かれていた

今後の方針:現在はライオンが1頭しかおらず、高齢のため活用の幅を広げるのは難しいが、ジビエ利用を継続していきたい

《令和元年6月の聞き取り調査に基づき作成》



動物園(入口)



あばら骨を食べる様子



イベント用の骨付きモモ肉



おやつタイム